



Monthly Wacco

発行 ● 狛江市市民協働課
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0012 狛江市中和泉 3-2-16
プランツベルツ 201
☎ 3430-6617 FAX3430-6743
Email=wacco@k-press.net
Homepage=http://www.k-press.net/

2006
平成18年
9



岩戸北



雑木林に研究所や工場

住宅が建ち並び電中研周辺 (写真提供=電中研)

1 狛江市ビン・缶リサイクルセンター

狛江市ビン・缶リサイクルセンター(1-1-11)は平成6年にオープン、市内で収集したビンと缶、ペットボトルの選別を行っている。2,053㎡の敷地にある鉄筋コンクリート造り2階建て、のべ床面積1,408㎡の建物では、



ビン・缶リサイクルセンター

日量4.9tの能力を備えた資源ゴミの選別施設に加え、見学施設や会議室が設けられ、リサイクルの啓もう活動を行うほか、市民団体の活動拠点となっている。

「フットマトの会」(生ごみ堆肥化研究会、武原夏子代表)は、生ごみの減量化をめざして、同センター開設の年に発足。密封容器に「ぼかし」(発酵促進資材)を入れて生ごみを分解、堆肥化する方式の普及をめざして、講習会や相談会を年数回開いており、今年14日にも午前

10時から同センターで講習会を催す。問い合わせは☎3488-5300市清掃課。

「彩染工房」(宮澤みどり代表)



裂き織り

表)は、集団回収で集めた布を裂いて織る「裂き織り」(写真)を月1回、同センターで行っている。市のごみ半減推進審議会の委員を務めた人が中心となり、古布を集めるだけでなく、もう一度よみがえらせようと16年から始めた。消費生活展などで展示、関心を集めている。連絡先☎3480-1288惣川さん。

2 伊井出森稲荷

伊井出森稲荷(3-8-10)は「曾我稲荷」「岩戸稲荷」とも呼ばれる。現在の当主の曾我正美さんの曾祖母・曾我ツルさんが、夢のお告げに従って、井伊掃部頭(井伊大



伊井出森稲荷

老)ゆかりの稲荷をまつり、明治20年代から稲荷にうかがいをたて、失せ物を見つけるなどの人助けをするようになった。霊験あらたかだとして評判になり、都心などからも多くの信者が集まり、亡くなる大正初めごろまで続いた。平成8年に道路際に移転、現在も多くの人が訪れる。

構内で花見をする市民(写真提供=電中研)



3 電力中央研究所

面積約57,000㎡と2丁目の広い面積を占める電力中央研究所(2-11-1)は、全国9つの電力会社から支援を受けて、約350人の職員が電気事業に関するさまざまな課題や先端的な研究に取り組んでいる。緑の多い敷地内には多くのビルが建ち並び、社会科学から理学・工学にわたる研究者が最新鋭設備を駆使して年間200件以上の研究を行っており、いま注目の給湯器「エコキュート」など数多

4 楽永山慶岸寺

楽永山慶岸寺(4-15-8)は浄土宗の寺で、慶長17(1612)年に開かれたといわれ、昭和53(1978)年に新築された本堂には、本尊として阿彌陀如来坐像をまつる。明治12(1879)年から



慶岸寺の本堂



塩地蔵(中央)

は、以前は世田谷通りの二の橋近くにあったのを境内に移したもので、以前はイボ取りや歯痛、頭痛のほか、子育てや安産を祈る人が多く訪れ、お礼に塩を供えたという。塩のため傷みが激しく、コンクリートで補修してあるが、ほとんど原型をとどめない。隣の慶岸寺幼稚園にも、子どもを抱いた延命地蔵がまつ



● 岩戸北の地域データ ●
18年1月1日現在
面積 0.510km²(市域の8.82%)(市内6番目)
世帯数 3,745(市内4番目)
人口 7,062人(市内5番目)
男3,446人、女3,616人
人口密度 13,847人(市内5番目)
●面積、人口、世帯数、人口密度などの数字はきわだっていないが、1世帯あたりの世帯人員が1.89人と市内で3番目に少ないのが特徴

くの結果をあげている。昭和18(1943)年に前身の日本発送電(株)の水力約2年間、第一小学校の前身の「江東学校」が置かれた。墓地入り口にある塩地蔵

試験所が造られ、26年に電気事業の中央研究機関として(財)電力技術研究所(翌年に現在の名称に変更)が発足、現在に至っている。開設当初は周囲に家が少なかったが、周りに宅地化したため、業務の拡大にともなって、千葉県我孫子市、神奈川県横浜須賀市、群馬県前橋市、栃木県塩原市に研究施設や実験場などを開設した。また、千代田区大手町に本部がある。



秋には市民に研究所を公開

地域に開かれた施設をめざし、サクラの時期には構内を花見のために開放、多くの市民が訪れる。狛江市民まつりに合わせて催される研究所公開では、ハイテク技術の公開られ、子どもたちの成長を見守っている。墓地整備のさい、市内最古の弘長3(1263)年の板碑が見つかった。

や講座、実験、市民団体のコンサートなどが人気をよんでいる。職員も多摩川一斉清掃や市内の音楽祭に参加、市民大学で講師を務めるなど、地域との交流に熱心に取り組んでいる。



延命地蔵